

<資 料>

和牛産肉能力検定（直接法：平成 22 年度）

片岡博行

Individual Performance Test of Sire in Japanese Black Cattle

Hiroyuki KATAOKA

要 約

候補種雄牛を雄子牛から選抜するため、社団法人全国和牛登録協会の定める産肉能力検定（直接法）を実施した。

- 1 平成 22 年度には 9 頭の直接検定を実施し、そのうち 7 頭の検定が終了した。
- 2 検定終了牛の平均 DG は、1.33kg、平均得点は 82.56 点であった。
- 3 検定成績、血統、体型等を総合的に評価した結果、「茂洋勝」、「畦根 9 の 6」、「姫糸藤」を候補種雄牛として選抜した。

キーワード：牛 和牛 黒毛和種 種畜 産肉能力検定（直接法） 増体量

結 言

和牛経営においては、繁殖雌牛の産肉性及び種畜性の改良が大きなウエイトを占めており、優良種雄牛の作出が急務である。

そこで、県内優良雌牛から生産された産肉性及び種畜性の優れた雄子牛について、増体性、飼料効率及び種畜性を判定するため、産肉能力検定（直接法）を実施した。

材料及び方法

1 検定牛

肉用牛広域後代検定推進事業により認定され

た基礎雌牛等の産肉能力育種価の高い繁殖雌牛から生産された雄子牛について産子調査を実施し、発育状況等の優れたものについて検定牛として選抜した。

平成 22 年度検定実施の検定牛は表 1 に示したとおりで、父牛別にみると「茂洋」の産子が 3 頭、「糸藤（岡山）」の産子が 2 頭、「利花」の産子が 1 頭、「千代桜」の産子が 1 頭、「沢茂勝」の産子が 1 頭、「花茂勝 2」の産子が 1 頭の計 9 頭であった。

また、平成 22 年度検定終了したものは、平成 21 年度開始分が 4 頭、平成 22 年度開始分が 5 頭の計 9 頭であった。なお、表 2 に検定牛の産肉形質に係る期待育種価を示した。

表 1 検定牛の概要

セットNo.	名 号	生年月日	登録番号	血 統			産地	検定期間
				父	母	母の父		
H21-3-1	藤玉桜	H21.06.04	2009子岡黒4345	糸藤（岡山）	第 4 5 たま	北国 7 の 8	津山市	H22.01.20 ~ H22.05.12
H21-3-2	洋田	H21.05.30	2008子受卵岡黒4288	茂洋	あけぼの 8 8	勝福茂	津山市	
H21-3-3	茂洋勝	H21.05.16	2008子受卵岡黒867	茂洋	かつさわだ	勝福茂	奈義町	
H21-4-1	畦根 9 の 6	H21.07.25	2009子岡黒1009	花茂勝 2	第 1 〇はせがわ 1	北国 7 の 8	津山市	H22.03.31 ~ H22.07.21
H22-1-1	茂利平	H21.11.16	2010子受卵岡黒1103	茂洋	とし 1	利花	美咲町	H22.06.16 ~ H22.10.06
H22-1-2	虎太郎	H21.11.15	2009子受卵岡黒2111	沢茂勝	はなはな	利花	勝央町	
H22-1-3	姫糸藤	H21.10.10	2009子受卵岡黒867	糸藤（岡山）	しんはつひめ 1	利花	真庭市	
H22-2-1	勝利	H22.05.03	2010子岡黒5568	利花	いとはな 1 1	平茂勝	新見市	H23.01.17 ~ H23.05.09
H22-3-1	千代花桜	H22.06.01	2010子岡黒5422	千代桜	とし 4	利花	新見市	H23.02.09 ~ H23.06.01

表2 校正牛の産肉能力期待育種価

(kg, cm, cm, 脂肪交雑基準値)

セットNo.	名号	期待育種価					
		枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	脂肪交雑		
H21-3-1	藤玉桜	25.139 (B2)	5.472 (B2)	0.274 (C)	1.092 (B1)		
H21-3-2	洋田 *	36.673 (B2)	5.201 (B2)	0.590 (B1)	1.121 (A3)		
H21-3-3	茂洋勝 *	53.322 (A3)	9.744 (A1)	0.346 (C)	1.307 (A2)		
H21-4-1	畦根9の6	29.058 (B2)	6.043 (B1)	0.969 (5%)	1.351 (A2)		
H22-1-1	茂利平 *	33.975 (B2)	16.287 (1%)	0.263 (C)	1.482 (A1)		
H22-1-2	虎太郎	39.443 (B1)	10.148 (5%)	0.517 (B2)	1.658 (3%)		
H22-1-3	姫糸藤	14.504 (C)	6.111 (B1)	0.281 (C)	1.158 (A3)		
H22-2-1	勝利	36.487 (B2)	4.034 (C)	0.348 (C)	1.410 (A1)		
H22-3-1	千代花桜	63.311 (A1)	17.424 (1%)	0.788 (A2)	1.532 (5%)		

(注意) : * は母牛の期待育種価

()内は、下記のランクを示す。

(1%); 上位1%以上、 (3%); 3%以上1%未満、 (5%); 5%以上3%未満

(A1); 10%以上5%未満、 (A2); 15%以上10%未満、 (A3); 25%以上15%未満

(B1); 1/3以上25%未満、 (B2); 平均以上1/3%未満、 (C); 平均未満

なお、育種価は第33育種価 (H23.4.1公表) による。

表3 検定成績結果

(kg, %, cm, 点)

セットNo.	名号	1日平均 増体量	365日 補正体重	飼料摂取量		粗飼料 摂取率	発育			審査得点
				CP	TDN		体高	(σ値)	発育判定	
H21-3-1	藤玉桜	1.26	392.0	96	542	53	123.6	0.4σ	3-(5)	82.1
H21-3-2	洋田	1.36	432.5	113	631	53	124.0	0.4σ	3-(5)	82.9
H21-3-3	茂洋勝	1.58	472.3	101	565	51	127.0	1.0σ	4-(5)	83.0
	平均	1.43	440.32	104.80	586.80	52.20	125.12	0.64		82.78
H21-4-1	畦根9の6	1.25	433.0	111	606	50	129.8	1.8σ	5-(4)	83.4
H22-1-1	茂利平	1.04	393.5	85	508	53	118.0	-0.9σ	2-(3)	81.2
H22-1-2	虎太郎	1.38	464.2	96	572	50	119.4	-0.5σ	3-(5)	82.6
H22-1-3	姫糸藤	1.38	461.1	109	655	52	132.0	2.5σ	5-(4)	82.4
	平均	1.27	439.60	96.67	578.33	51.67	123.13	0.37		82.07
	全体平均	1.32	435.51	101.57	582.71	51.71	124.83	0.67		82.51

2 検定方法

検定方法は、社団法人全国和牛登録協会の定める和牛種雄牛産肉能力検定法 (直接検定) に準拠し、次のとおり実施した。

- (1) 検定開始月齢 : 6 ~ 7 カ月齢
- (2) 検定期間 : 112 日間
- (3) 検定飼料及び給与方法
 - 濃厚飼料 : 直接検定用飼料を体重比 1.0 ~ 1.3 % 制限給与 (DCP 12.5% TDN 70.5%)
 - 粗飼料 : チモシー乾草を飽食

3 検定調査項目

1日当たり平均増体量 (DG)、365日齢補正体重、飼料摂取量、体重 (2週間毎)、各部位測尺 (4週間毎)、終了時審査得点

検定成績

平成 22 年度に検定が終了した 7 頭について、検定成績を表 3 に示した。

1 増体量

1日当たりの平均増体量は、最高 1.58kg 「茂洋勝」、最低 1.04kg 「茂利平」、平均 1.32kg であった。

また、365日齢補正体重は、最高 472.3kg 「茂洋勝」、最低 392.0kg 「藤玉桜」であり、平均で 435.51kg であった。

2 飼料摂取量及び粗飼料摂取率

飼料摂取量の内、蛋白質関連は CP で表示さ

れ、「洋田」が最高で 113kg であり、最低は「茂利平」の 85kg で、平均は 101.57kg であった。また、飼料摂取量の内 TDN は、最高が「姫糸藤」の 655kg で、最低は「茂利平」の 508kg であり、平均は 582.71kg であった。

また、粗飼料摂取率は、最高が 53 %、最低が 50 % であり、平均は 51.71 % であった。

3 終了時の発育及び審査得点

終了時の体高の最高は 132.0cm の「姫糸藤」で、最低は「茂利平」の 118cm であり、平均は 124.83cm であった。社団法人全国和牛登録協会の定める和牛発育標準（雄）に基づく発育判定では「5-(4)」が 1 頭、「4-(5)」が 1 頭、「3-(5)」が 3 頭であり、「2-(3)」が 1 頭であり、概ね良好な成績であった。

また、審査得点は、最高が「畦根 9 の 6」の 83.4 点で、最低 81.2 点が「茂利平」であり、平均は 82.51 点であった。

4 候補種雄牛の選抜

岡山県和牛改良委員会において、直接検定成績、血統及び体型等の結果を総合的に協議した結果、「茂洋勝」、「畦根 9 の 6」及び「姫糸藤」を候補種雄牛として選抜した。

参考文献

- 1) 和牛登録事務必携（平成 17 年度版）．（社）
全国和牛登録協会編．158-160

